

れんごう中越地協

第1100号2022.2.11
連合中越地域協議会
長岡市愛宕3-7-24
TEL 0258-86-0111
FAX 0258-86-0884
発行人 矢島 良彦
定価 1部10円
購読料は会費に含む



22年度連合中越地協 新春にあたり

議長 副議長などから抱負を伺う

毎年「連合中越地協四役とSJネット新春対談」では、各構成組織の課題や春季生活闘争等について意見交換してきたが、感染が収まらず昨年同様「各構成組織の課題や春季生活闘争関係、今年の抱負やめざすもの等について」書面で伺った。

★矢島議長

新年明けましておめでとうございます。本日もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスが蔓延し3年目を迎えるわけですが、徐々に防疫措置が整い、今日ではワクチン接種も進み、経口薬も一部承認され、いよいよ収束へのシナリオへと向かうかと思いましたが、変異株オミクロンが瞬く間に国内を席巻しています。ワクチンのブースター接種との競争にもなりませんが第6波・第7波への危険は拭えません。

それはさておき、コロナ禍で疲弊した国民経済もようやく昨年末から回復の兆しが見え

てきました。リベンジ消費と言われるもので、コロナ禍での家計総資産額は過去最高の1900兆円超え(21.9末)となり、感染が下火となった10月以降から国内消費が俄然高まりを見せているのです。この流れで、年末年始の消費や今後取り組まれるであろうGOTOキャンペーン、各種イベントの再開により国内の総需要の喚起が起ころのが2022年ではないかと推測されます。

このように経済が循環してきた中で、2022春闘をどう展開するのか重要な意味を持ちます。連合は2%の賃金改善を定めていますが、経団連は業績

に応じた賃上げを推奨しており、労使交渉は本来の春闘の意義である先行組合の相場作りの点で合点がいきます。また、政府も企業への働き掛けを強め、減税と言う悪魔のささやきをちらつかせ、賃上げ協力を躍起になっています。国が民間の労使交渉へ関与するということ事は、本来の資本主義からするとタブーですが、今年の岸田総理の覚悟はこれまでの首相とは異なり、それ相応のニンジンをお下げていく点が怖い所です。

さて、賃上げして生活の底上げを図り国内消費を喚起する。経済の好循環をめざし、デフレからの脱却をするといふ連合方針は変わりありません。産別方針となればその中に格差是正が盛り込まれ、3つの格差是正、すなわち「産業間」「企業規模間」「雇用形態

間の格差是正を進める必要があります。賃上げは今年だけの問題では無いのです。日本の実質賃金は1997年をピークに下がりに続けています。足元では物価が上昇し、消費主導の景気回復による経済の好循環に乏しい懸念もありま

す。ですから、まずは組合員の生活向上へ向けて2022春闘は積極的に展開していくかなければなりません。7月の参議院選挙。立憲・国民民主党の大きな塊への期待は薄くなるばかりです。泉代表の提案型の政治には共感しますが、これは今に始まったことでは

なく、民主党時代から有能な政治家が様々提案してきた経緯を考えると、反対ばかりの立憲民主党というのはいささか意識し過ぎではないかと思えます。それに文書交通通信滞在の自己責任社会制度で

あるベーシックインカム(全国民に最低限生活に必要な給付金を一律に支給、社会保障制度を縮小する制度の導入を主張して)います。これに対して、すべての国民が安心して生活できる社会保障制度を公共サービスの充実によって実現しようとするベーシックサービス、あるいはサービスと現金給付との最適な組み合わせによるベーシックアセットなどの、新自由主義に對抗する新社会民主主義に基づく政策への転換が重要になってきてい

ます。そのためには、税と社会保障・公共サービスへの信頼を作ることが不可欠で、その第一歩は自治体サービスだという認識に立って、自治労は「参加する春闘」を構築する方針です。

極的に感じます。そういうところが日本維新の会との支持率の違いなのかもしれません。参議院選挙は大きな塊となつて有権者の審判を仰いで貰いたいです。現行のドント方式の選挙制度に問題は感じますが、まずは連合推薦候補の躍進に期待をしております。

最後に、2月の冬のオリンピック、11月のワールドカップサッカーの代表の活躍を期待しております。

皆さんは「安全に！」という言葉を聞いたことがありませぬか。これは、主に製造業や建設業などで使われるあいさつ言葉で、基幹労連でも取り入れられています。この言葉は、ドイツの炭鉱で働く坑夫たちの間で使われていた「Gluckauf(グリュックアウフ)」「無事です」という挨拶が由来で、昭和26年、当時の住友金属工業(現・日本製鉄)の社員が現地での挨拶を知り、帰国後に社内での安全啓発活動として「安全に！」をあいさつ言葉とするよう提言したことから始まり、その後、鉄鋼業界を中心に全国に広まっていったと言われています。私の職場でも、仕事が終わりましたね、お疲れ様でした。、これから仕事に就く人には「気

を付けて働いてください。」というように、相手のことを思いやりながら「ご安全に」と挨拶が交わされています。この冬も雪による事故が多く発生しています。冬道は視界も悪く、慣れた道だからといって油断は禁物。ながら運転などで判断が遅れただけでも事故に繋がります。2月になってもまだまだ雪・凍結によるスリップの危険は潜んでいます。脇道から車や人が出てくるかもしれない。「前の車が急に止まるかもしれない」という「かもしれない運転」も大事ですが、「お先にどうぞ」や「慌てないでゆっくりどうぞ」など、相手の安全を思いやる「ご安全に運転(笑)」も心掛けてはどうでしょうか。「ご安全に！」

★横澤副議長
新型コロナウイルス感染症の拡大から2年目の新年を迎えました。多くの構成組織でも様々な影響を受けていると思います。自治労、自治体の職場でも保健所、医療機関の職場はもちろん、そのほかの職場でも様々な影響を受けています。

こうしただ中の春闘。自治労は昨年に引き続き「もつと公共サービスに投資を！」キャンペーンを行うことにしています。このキャンペーンはコロナ禍で明らかになった、この間の新自由主義的改革で瘦せ細った公共サービスの危機を克服するため、公共サービスの拡充を求めているというものです。

★五十嵐副議長
新型コロナウイルス感染症は変異株の登場により新しいステージに進んでいるように感じます。22年は更なる変化対応が必要とされそうです。私たちの活動に「心理的安全」が必須となります。どの様な状況なら「お互い大

丈夫」と考える事ができるのか、そしてどうやって組合員に「伝えて行くのか、大きな課題と捉えています。春季生活闘争についても各職種により状況が違えば「生活」に必要な部分は主張していかなければいけません。組合員の生活向上実現には「私たちの意見」を伝える手段が必要で、それには参議院選挙において組織内議員の議席確保が必須です。今年の大きな目標として取り組みたいと思います。

あつご3
No.40

幹事(教宣文化)
米持信也

昔恋愛 今介護 (何よりも 敬語の妻が 恐ろしい)

★野田副議長

2022年は新型コロナウイルス感染症対策から学んだあらゆる施策を進めたい。その代表例がテレワークであり、場所・時間・方法を問わず生産性をアップすることが可能になりつつあります。次のステップとしては成果と報酬を結び付けなければなりません。ここが今後の大きなポイントとなるでしょう。

また、あらゆる産業に於いてDX化やAIが導入され、人との差別化も今後の重要な課題と考えます。私達の働く環境は大きく変わろうとしていることを自覚し、個々でも新たなチャレンジが求められると思われま。初めてのことが多く誰もが戸惑いと不安を感じがちではあります。失敗を恐れずチャレンジしていきば大きな飛躍を遂げると思っております。

★小堺副議長

電機連合の産業動向について、21年4〜9月の国内生産高累計は、全体としてはコロナ禍に見舞われた20年から大きく回復しました。産業全体では回復傾向にあります。今春闘においては、『生活不安、雇用不安、将来不安』の払拭と『すべての労働者が、いきいきと働ける環境』をめざし、継続した『人への投資』に取り組みたいと思っております。

昨年同様に新型コロナウイルス禍でも安心・安定した生活がおくれる基盤を確立させることが急務であると考えます。その為に連合を通じて色々な産別の労働者が情報を共有できる場を教宣・文化担当で立案し提案していきばと思っております。

★猪俣副議長

また、今年の参議院議員選挙については、前回の参議院選挙での敗北を反省し、組織内議員候補の2期目の当選に向けて、取り組みたいと思っております。

各企業においてもグリーンエネルギーの使用やCO2削減等による開発投資増が見込まれる。中長期的な経営方針の難しい判断をしなければならぬ。特にJAMはものづくり産業の中小企業が多い。単独での企業存続が難しくなることが予想され、組織拡大と合わせて更に今までの以上の連携が必要となります。引き続き構成組合の業績や市場動向を組織で監視して雇用維持・確保を最重要課題として推進いたします。その一環として第26回参議院選挙に於いて、労働者の声を国会へ届ける為に必ず組織内議員を勝利させなければなりません。

★野田副議長

2022年を迎え国民市担当として5月1日「第93回メーデー」の開催、特に「農業・食料・環境問題の取り組みとして、

これからは始まる春闘生活闘争においても、『ジョブ型雇用』『統一要求の断念』等から産別組織のみならず各企業による賃金格差が明確化になると予想されます。業種にとらわれず働く者全員の賃金が安定しなければ経済は回らないことから、連合を中心に各産別の連携を強化していきたいと思っております。

★野田副議長

また、今年の参議院議員選挙については、前回の参議院選挙での敗北を反省し、組織内議員候補の2期目の当選に向けて、取り組みたいと思っております。

題に関する事業は、昨年度まで見附市で開催していた「そば撒き・そば刈り」が終了となり、新たな事業を考え運動を継続しなければならぬ。新しいことを始めることは新鮮で良いのですが、企画案を出すまでが「苦労」です。しかし、やるからには組合員が参加し、「楽しかった・参加して良かった」と次年度にも繋がる企画を提案し、運動の継続に繋がってほしいと思っております。

★野田副議長

その他エネルギー政策を巡る諸課題について、50年カーボンニュートラル宣言や21年4月に示された温室効果ガスの新たな削減目標をはじめ、エネルギー・気候変動問題等を巡る内外の情勢変化等を踏まえたエネルギー基本計画(第6次計画)への対応等、電力関連産業の事業運営や労働環境、雇用に影響を与える可能性のある課題が山積している。スマートメーターをめぐる状況については、遅くとも24年度までに導入を完了する予定となっており、これらに関連する業務に従事する者の雇用・地域・労働条件の確保に向けた取り組みが喫緊の課題となつております。

また、今年度の参議院議員選挙については、前回の参議院選挙での敗北を反省し、組織内議員候補の2期目の当選に向けて、取り組みたいと思っております。

★野田副議長

また、今年の参議院議員選挙については、前回の参議院選挙での敗北を反省し、組織内議員候補の2期目の当選に向けて、取り組みたいと思っております。

このように状況は、働く職員も同様です。今までは、歓迎会や飲み会などで人となりを理解し、相談しやすい環境が作られてきました。感染対策で、飲み会や話し合う機会が少なくなり、隣の同僚がどのような人なのかよく分からないということがあります。特に、新採用者や青年部層などの職員の経験が少なく、周りからの声かけやサポートが必要となることが多々あります。

★野田副議長

昨年、青年部主催のズーム飲み会を行いました。その中で、自分の趣味や困り感などを話す中で、笑顔で交流することができました。今年も、「組合の活動が見える、頼りになる」とことを大切にするとともに、組合員同士のつながりを意識した活動に重点をおいて活動していきたいと思っております。

また、今年度の参議院議員選挙については、前回の参議院選挙での敗北を反省し、組織内議員候補の2期目の当選に向けて、取り組みたいと思っております。

連合中越地協SJネット 第3回委員会

日時 2月24日(木)18:30~

場所 地協事務所

内容 当面の活動 その他

連合中越地協 組織対策幹事会

日時 2月17日(木)18:30~

場所 さいわいプラザ講座室

内容 連合新潟組織拡大 その他

サラリーマン川柳 (パソコンの画面見ていりゃ 仕事中心) (温暖化 兆しすらなし 夫婦仲) (膝枕 退けと威嚇す 妻の猫) (リサイクル 出すのはいつも 俺の物)